



# IIDA SHINKIN BANK HOTLINE 2024

ディスクロージャー誌

飯田信用金庫の現況

# ごあいさつ

平素は飯田信用金庫をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

みなさま方に、当金庫の業績をより良くご理解いただくため、今年もディスクロージャー誌「HOTLINE（ホットライン）2024」を作成いたしました。本冊子をご高覧いただき、私どもの現在の姿をご賢察いただければ幸いです。

令和5年度の日本経済は、コロナ禍の3年間を乗り越え、社会経済活動再開の動きが加速し、インバウンド需要が順調に回復する等緩やかな持ち直しが続きました。

他方、世界情勢不安による資源・原材料価格の高騰、急速に進行した円安による国内物価高騰、深刻な人手不足等の懸念材料が顕在化しており、直近では、長期間続いたマイナス金利政策解除が経済活動や日常生活に及ぼす影響も不安視されております。

また、当地域においては、地域発展への寄与が期待されているリニア中央新幹線の開通延期発表もあり、先行きは明るいばかりとは言えない状況にあります。

そのような中、当金庫では第9次中期経営計画2年目を迎え、課題解決支援の「拡大」×「深化」×「加速」を経営上の最重点目標に掲げ、職員一丸となり

地域やお客さまが抱える多くの課題の解決支援にスピード感を持って全力で取り組んだことにより、多くの成果を積み上げることができたのではないかと感じています。

令和6年度は第9次中期経営計画の「総仕上げの年度」として、「お客さまと地域の課題解決支援の強化」に引き続き役職員一丸となって取り組んでまいります。

みなさま方に支えられ当金庫は令和7年9月に創立100周年を迎えます。令和6年6月には次の100年に向け、長い間掲げてきた当金庫の経営理念を見直し、新たな経営理念を策定しました。リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を見据え、これからも大きく変化する地域の将来に向けて、地域の成長や活性化に寄与することも大きな課題と捉え、役職員一丸となり、地域やお客さまからこれまで以上に必要とされる金融機関となれるよう取り組んでまいります。

末筆ではございますが、みなさま方には今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

理事長 **小池 貞志**

## 経営方針

### 経営理念

## 地域の 明るい未来を とものにつくる

### 行動指針

- 地域のために力を尽くす
- つながりを大切にする
- 健全な経営に努める
- 明るく働きやすい職場をつくる

飯田信用金庫は令和7年9月1日に  
創立100周年を迎えます

～ おかげさまで100周年。  
これからも地域の  
みなさまとともに。 ～





# CONTENTS 2024

## ごあいさつ

第9次中期経営計画	3
マネー・ローンダリングへの取り組み	4
業績ハイライト	5
トピックス	7
主な商品・サービス一覧	9
地域貢献表彰「SPARC(スパーク)」	10
中小企業の経営支援および地域活性化のための取り組み	11
総代会制度	13
店舗一覧・所在地地図	15
役員一覧・組織図	17
環境への取り組み	18
SDGsへの取り組み	裏表紙

## 飯田信用金庫の決算状況

資料編(財務諸表)については  
当金庫WEBサイトをご覧ください。



## 飯田信用金庫の概要

令和6年3月31日現在

名 称	飯田信用金庫
本店所在地	長野県飯田市本町一丁目2番地
創 立	大正14年9月
店 舗 数	23店舗
出 資 金	10億17百万円
会 員 数	26,229人
常勤役員数	343人
預 金	6,072億32百万円
貸 出 金	2,652億08百万円
有 価 証 券	3,403億61百万円



## 当金庫の主な事業

### ■ 預金業務

当座預金、普通預金、貯蓄預金、通知預金、定期預金、定期積金、別段預金、納税準備預金、非居住者円預金、譲渡性預金等

### ■ 貸出業務

手形貸付、証書貸付、当座貸越、手形の割引(でんさい割引含む)

### ■ 為替業務

内国為替業務、外国為替業務

### ■ 証券業務

有価証券投資業務、公共債の引受・販売、私募債の引受、投資信託の販売等

### ■ 保険募集業務

年金保険、終身保険、がん保険、医療保険、火災保険、傷害保険等

### ■ 代理業務

日本銀行、日本政策金融公庫、信金中央金庫、住宅金融支援機構等

### ■ その他

債務保証、貸金庫業務、公金取扱業務、電子債権記録業に係る業務、確定拠出年金業務、企業等の経営改善支援、信託契約代理店業務等

# 第9次中期経営計画 (2022年4月～2025年3月)

## 架け橋2028 Second Stage ～ Change is Chance ～

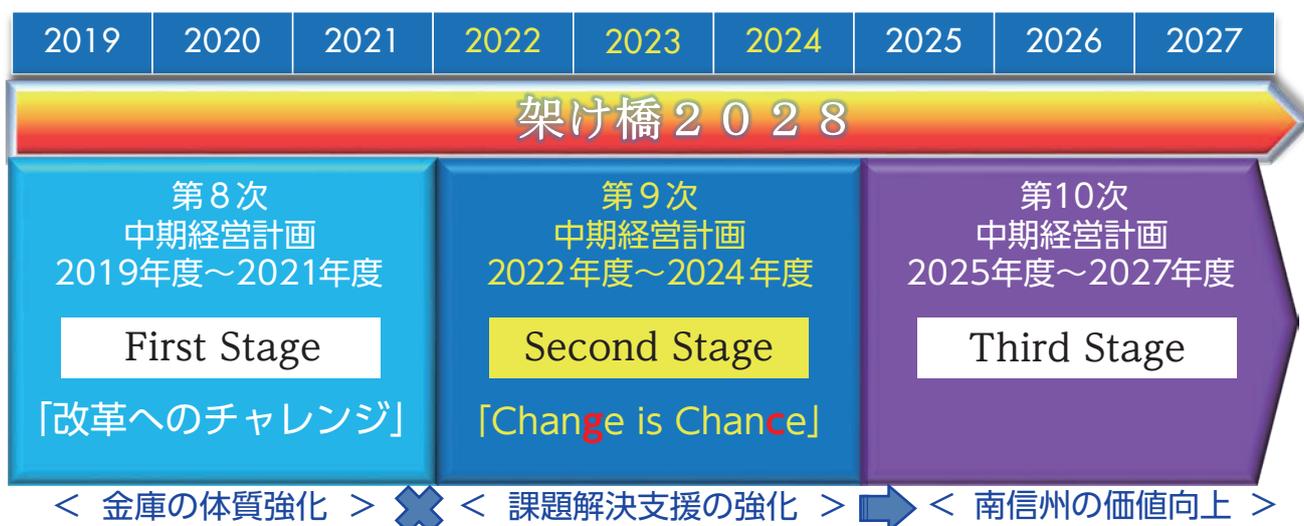
### ■経営ビジョン(2028年のありたい姿)

地域に寄り添い、お客さまと強い絆で結ばれた南信州の価値向上に貢献する金融機関

### ■長期経営計画「架け橋2028」における第9次中期経営計画の位置づけ

第8次中期経営計画では「業務改革」(組織・人事制度改革、店舗体制・店舗機能改革、業務プロセス改革)に全職員の英知と努力を結集して取り組み、大きな成果を残すことができました。

第9次中期経営計画ではコロナ禍や社会構造の変化による環境「変化」(Change)を成長や発展の「機会」(Chance)として前向きに捉え、「共感・協働・共創」をテーマとして、お客さまと金庫との関係性を改善し、強固な信頼関係を再構築します。



### ■第9次中期経営計画の全体像



2022年4月1日～2025年3月31日

お客さまのGrief(苦悩・心配)を各種支援でCourage(勇気)に変える  
お客さまの課題を解決する

- ①お客さまとの接点の拡大・サービスの拡充
- ②本業支援によるお客さまの業績の向上
- ③お客さまのライフステージに合わせた支援態勢の拡充

地域と金庫の将来を担う職員を育成する

- ①多様性と個性を反映した活躍支援
- ②キャリア支援と金庫外業務の経験による成長促進
- ③専門能力の強化とIT・デジタルリテラシーの向上

活動・価値基準をGet(獲得する)からCreate(創造する)に変える

## 架け橋2028 Second Stage Change is Chance

お客さま・地域・職員・金庫のChan“g”eをChan“c”eに



地域のGeneral(一般的)をCharacteristic(特徴的)に変える  
地域の魅力を高める

- ①SDGsを通じた地域の課題解決支援
- ②三遠南信自動車道・リニア中央新幹線の開通を見据えた地域支援
- ③地域に対する人的支援・人材育成支援

サステナブルなビジネスモデルに変革する

- ①事業領域拡大と提供価値の多様化による収益の増強
- ②DXによる事業・業務・サービスの質的変化の促進
- ③持続可能な経営基盤の構築

Goal(目的・目標)を再定義し、ビジネスモデルをConversion(変換)する

## 第9次中期経営計画の概要

主要項目	主な内容
名称	架け橋2028 Second Stage ~ Change is Chance ~
ありたい姿	お客さまや地域の課題解決を実現する様々な施策が立案・実行され、多くの成果が表れている
テーマ	共感・協働・共創
基本方針	1. 従来の考え方と行動を変革することにより、直面する激しい環境「変化」を成長と発展の「機会」とする。 2. お客さまと地域の希望や喜び、不安や悩みに「共感」し、課題解決のために「協働」することにより、未来を「共創」する。
重点課題	お客さまと地域の課題解決支援の強化
重点目標	<お客さま> お客さまの課題を解決する <地域> 地域の魅力を高める <職員> 地域と金庫の将来を担う職員を育成する <金庫> サステナブルなビジネスモデルに変革する

## 重点目標に対する総合KPI

重点目標	総合KPI（重点目標を達成した結果・姿）	2025年3月末
<b>お客さま</b> お客さまの課題を解決する	・積立型資産形成契約先数 ・創業・事業承継・M&A・撤退（廃業）支援件数	1,500先 330先
<b>地域</b> 地域の魅力を高める	・取引先付加価値額の増加（増加先数・増加率） ※付加価値・経常利益+人件費+賃料+金融費用+租税公課+減価償却費	250先 3%
<b>職員</b> 地域と金庫の将来を担う職員を育成する	・外部出向・派遣により金庫に活かせる業務や経験をした職員数 ・デジタル人材の育成	5名 13名
<b>金庫</b> サステナブルなビジネスモデルに変革する	・コア業務純益（投信解約損益除く） ・CO <sub>2</sub> 削減量（2013年度比）	24億円 50%

## マネー・ローンダリングへの取り組み

当金庫は、マネー・ローンダリング・テロ資金供与・拡散金融（以下、マネー・ローンダリング等）の防止に向けた対策を経営上の重要な課題の一つとして位置付け、総合企画部を統括部署、総合企画部統括理事を責任者として定めるとともに、当金庫が直面するリスクを適切に評価し、リスクに応じた対策を実施しています。

### マネー・ローンダリング等防止に向けた取り組みの強化について



金融取引の複雑化や犯罪手法の巧妙化に伴い、マネー・ローンダリング等のリスクが高まってきている中、当金庫は、マネー・ローンダリング等を未然に防止するため、「犯罪による収益の移転防止に関する法律（犯罪収益移転防止法）」ならびに「金融庁マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関するガイドライン」等の関係法令等を遵守し、引き続き一層の取り組み強化に努める方針です。

なお、お客さまのお取引が「犯罪収益の移転の危険性が高いものとして『疑わしい取引』の届出に該当する取引」と認識した際は、当金庫は速やかに監督官庁に「疑わしい取引」の届出を行うとともに、継続的な取引モニタリングの実施や取引制限を行うことが義務付けられています。

そのため、今後は金融当局等の指導に基づき、当金庫がマネー・ローンダリング等のリスクが高いと判断せざるを得ない一部のお取引につきましては、通常のお取引よりも厳重な取引時確認を実施させていただくとともに、場合によりましては当該お取引をお断りさせていただく、または一部お取引を制限させていただく場合がございます。

お客さまには一部ご不便をお掛けすることが予想されますが、何卒趣旨をご理解いただくとともに、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### お取引時確認およびお客さま情報の定期的な確認のお願いについて



マネー・ローンダリング等の防止を強化する目的で平成25年4月1日「犯罪による収益の移転防止に関する法律」が改正されたことに伴い、当金庫では、口座開設等に際して従来の本人確認（氏名、住所及び生年月日等）に加え、お取引の目的、職業や事業内容等について確認（取引時確認）させていただいています。

加えて、お客さまのお取引の内容、状況等に応じて、過去にご確認させていただいた、お客さまの氏名・住所・生年月日や、お取引の目的等を、当金庫の窓口や郵便等により再度定期的にご確認させていただく場合があります。また、その際に、各種書面等のご提示をお願いする場合があります。

各種質問へのご回答やご依頼した資料のご提出について、適切にご対応いただけない場合、やむを得ず新規のお取引をお断りさせていただく場合があります。また、既にお取引いただいているお客さまにおかれましては、やむを得ずお取引の一部を制限させていただく場合があります。

また、平成28年10月1日の再改正に伴い、顔写真のない本人確認書類のご提示における追加的な確認、法人のお客さまの実質的な支配者として個人の方まで確認、及び外国政府等において重要な公的地位にある方等の確認などをさせていただいています。

また、平成26年7月1日から米国の外国口座税務コンプライアンス法（通称「FATCA（ファトカ）」）に基づいて、「お客さまが米国人等に該当するか」の確認、平成29年1月1日からは租税条約等の実施に伴う所得税法、法人税法及び地方税法の特例等に関する法律（略称「実特法」）に基づき、「お客さまが居住者として租税を課される国（居住地国）はどこか」について確認させていただいています。

併せてご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

# 業績ハイライト

地域のみなさまのご支援により、預金、融資、収益等の各部門で、次のような業績をあげることができました。

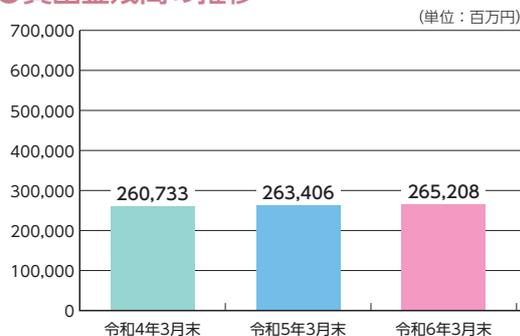
## 業績は堅調を維持しています。

### ■預金・貸出金の状況

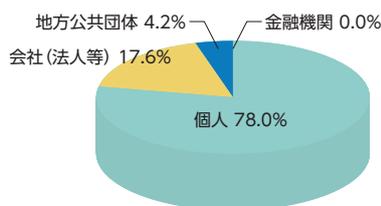
#### ●預金残高の推移



#### ●貸出金残高の推移

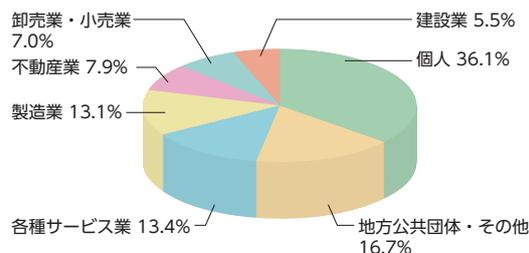


#### ●預金者別構成比



▶預金積金残高 **6,072億円**

#### ●貸出先別構成比



▶貸出金残高 **2,652億円** ▶預貸率(注) **43.6%**

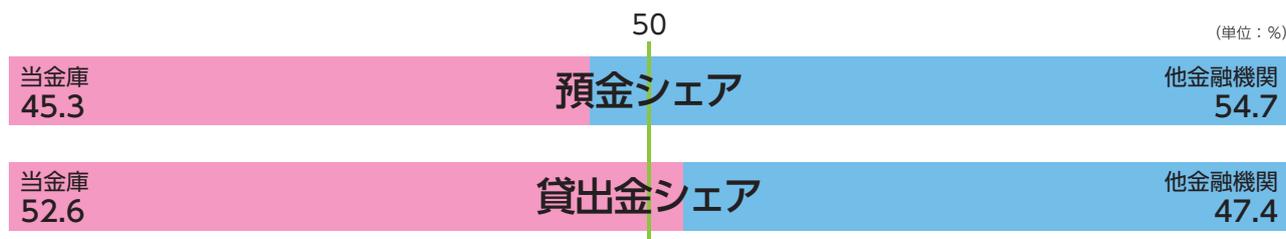
(注) 預金の残高に対する貸出金の残高の割合を預貸率といいます。

預金の期末残高は、前期末比36億46百万円、0.60%増加し、6,072億32百万円となり、増加額、増加率ともに堅調に推移しました。個人預金は、期間限定定期預金を発売したことなどにより、0.43%増加、法人預金等は、1.21%増加しました。

貸出金の期末残高は、前期末比18億1百万円、0.68%増加し、2,652億8百万円となり、増加額、増加率ともに堅調に推移しました。個人向け貸出金は、住宅資金需要の堅調な伸びを背景に、2.16%増加しました。

## 地区内シェアはNo.1。

### ■地区内シェアの状況



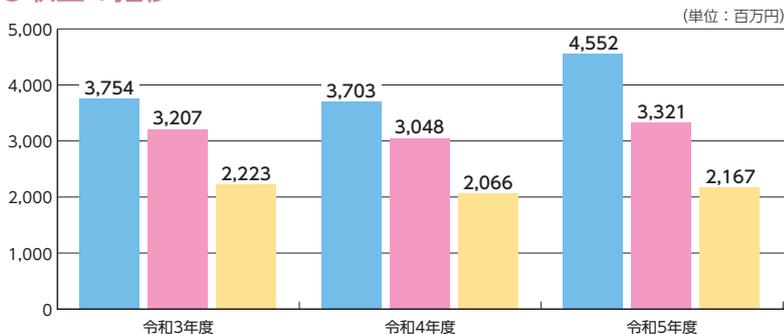
地域のみなさまから厚い信頼をいただき、当金庫の主要営業地区である飯田・下伊那の金融機関(ゆうちょ銀行を除く)内における預金残高シェアは45.3%、貸出金残高シェアは52.6%となっています。(みなみ信州農協は2月末、その他の金融機関は3月末の残高による比較) ※他金融機関は、飯田下伊那地区内の銀行、信用組合、農協における預金、貸出金の合計

# 安定した収益を堅持しています。

## ■収益の状況

■ コア業務純益 ■ 経常利益 ■ 当期純利益

### ●収益の推移



利回りの低下により貸出金利息収入が減少したほか、各種事業の再開や設備投資などにより経費が増加しましたが、有価証券利息収入が大幅に増加したことから、コア業務純益、経常利益、当期純利益はいずれも増益となり、大きく目標を上回りました。

# 有価証券の含み益は329億円。

## ■有価証券の状況

### ●保有有価証券の時価情報

(単位：百万円)

		取得原価	時 価	評価差額
保有有価証券	株 式	7,784	18,815	11,031
	債 券	259,470	265,298	5,828
	その他	40,139	56,246	16,106
合 計		307,395	340,361	32,966

お客さまからお預かりした預金のうち、貸出金に回らない資金は主に有価証券にて運用しています。堅実な資金運用と運用資産の健全化に取り組んだ結果、当期末の有価証券の含み益は329億円となりました。これは、信用金庫業界トップクラスの水準です。

# 自己資本の額は689億円。

## ■自己資本比率(単体)

### ●自己資本の額・自己資本比率の推移

自己資本の額は、当期純利益21億67百万円を計上したことなどから、前期末比3.25%増加し689億77百万円となりました。

一方、主にリスク・ウェイトの低い資産が中心となり増加したことなどから、リスク・アセットは前期末比0.01%の増加にとどまりました。

この結果、当期末の自己資本比率は、前期末の20.17%から0.66ポイント上昇し20.83%となりました。

引き続き国内基準(4%以上)を大きく上回っており、高い健全性を維持しています。

